

# 県民参加 NPO等協働 通信

このコーナーでは、県民参加の活動事例や NPO などとの協働事例を紹介します。

## 「雪谷川 結いのみちづくり事業」 ～住民と 足並みそろえ 道路舗装～

### ○ 結いのみちづくり？

材料は他の現場から出た廃材などでまかない、地域住民と町・県の職員が協働で道路を舗装する——。こんな試みが、本年度災害復旧事業が完了した雪谷川の管理用通路で行われました。

雪谷川は軽米町中心部を流れる県管理の河川で、平成11年に岩手県北部を襲った豪雨により河川が氾濫し甚大な被害が生じたため、H11～H16の間、災害復旧事業に取り組んで来た河川です。その雪谷川の管理用通路は幅3.0mの砂利道となっていますが、15年度に行われた地域県政懇談会の中で、雪谷川地域住民の代表から「通学路や散策路として利用されているが、砂利道で歩きにくい。また草刈りもやりづらい。舗装して欲しい」という要望がありました。

通常、管理用通路の舗装は行われませんが、二戸地方振興局土木部ではなんとか地域住民に、長く大事に雪谷川を使って欲しいという思いがありました。また、岩手県では「県民参加のガイドライン」や「県民参加推進プログラム」が策定され、県民による公共事業の推進が強く求められている時期でもありました。ならば、「お金はあまりないけど、みんなで一緒に舗装してみようか!!」、そのようにして生まれたのが「結いのみちづくり事業」です。



### ○ みんなで舗装しましょう！

「結いのみちづくり事業」はH16,17の2カ年に、県の地域活性化事業調整費を充てて行われることになり、今年度は軽米町市街地部を中心に約1.5kmの舗装を行いました。

記念すべき第1回目の舗装は10月24日(日)、当日は天候にも恵まれ、雪谷川流域の地域住民、軽米町長を始めとする役場職員、振興局長を始めとする県職員、総勢約70名が軽米地区に集まりました。

作業は次のような流れで行われました。

#### 1) 草刈り・かき起こし

管理用通路には草が生え、でこぼこであったため、事前に草刈り、機械を使って砂利のかき起こしをしました。

#### 2) 材料荷下ろし、敷き均し

4t ダンプを使ってAs切削材等の材料を荷下ろし、それをみんなでスコップを使って敷き均しました。始めは気合いを入れてやるのですが、結構な重労働ですぐ腰が痛くなり、日頃の運動不足を実感しました……

#### 3) 路面整正・転圧

敷き均した材料をレーキで整正、その後、振動ローラーで転圧します。ここまできるとだいぶ道路らしくなってきます！

#### 4) 乳剤散布・砂散布

転圧した道路を固めるためアスファルト乳剤をまきます。ベニヤ板を持って乳剤が飛び散らないようにするのですが、素人であるため、乳剤がかかり作業着はバタバタ真っ黒に。最後に砂をまいて完成です!!

## 施工前



## 施工後



初めての作業にもかかわらず作業は順調にすすみ、約 700m の延長を舗装することができました。

第 2 回目の舗装は 11 月 21 日(日)、小軽米地区、下円子地区で行われました。約 60 人の方々が一緒に汗を流し、約 800m の延長を舗装することができました。作業が終了したとき辺りはもう薄暗くなっていましたが、出来上がった道路を見たとき、なんとも言えない充実感がありました。

### ○コスト縮減にもなりました！

通常、延長 1.5km の道路をアスファルト新材を使って舗装すると、約 400 万円の工事費が必要になりますが、今回は舗装材料は他の現場からでた切削材を利用、作業員はほとんどボランティアの方でまかだったので、およそ 190 万円で舗装することができました。また、この事業がきっかけとなり地域愛護意識が高まり、管理の一部をこれからもお願いできれば、維持管理費用縮減にもなります。

住民との協働は、コスト縮減にも繋がるのです。

【当日の作業の様子】

①荷下ろし



②敷き均し



⑤レーキ



⑥転圧後



③敷き均し



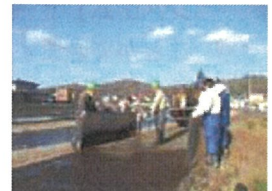
⑦乳剤散布



④整正



⑧乳剤散布



### ○おわりに

今回、無事トラブルもなく第 1、2 回目の「結いのみちづくり事業」を行うことができました。当初は初めての経験で不安な部分もありましたが、「作業は大変だったけど、こんな経験ができてよかった」、「ちょっとでこぼこだけど、歩きやすくなって嬉しい」といった声が住民の方から聞かれ、二戸地方振興局土木部としてはとりあえずほっとしているところです。また地域住民が一所懸命作業している姿からは、災害を乗り越えてきた人々の力強さも感じることができ、これからも行政と住民が一体となって、雪谷川を守っていければと思います。

「結いのみちづくり事業」は、地域住民との協働による社会資本整備のモデル事業的に行われたものですが、単に道路が歩きやすくなるだけでなく、地域愛護精神の向上やコスト縮減など、様々な効果が期待できることが確認できました。「結いのみちづくり事業」は来年度まで行われますが、この事業にとどまることなく、他の事業・他の現場へ、このような取り組みを広げて行きたいと考えております。